

子どもの未来を守ろう



その香り必要?

⑪

近年、発達障害児の増加が問題になっています。発達障害の発症と合成化学物質との関連を指摘する声が国内外から上がっていることをご存じでしょうか。

授業の間じつとしていられずに歩き回ったり奇声を上げたり、自分の殻に閉じこもってコミュニケーションが取れなかったりするなど、発達障害の症状はさまざま。他の子どもにも影響してしまうため、問題を抱えた子どもたちは、普通学

級ではなく特別支援学級で教育を受けることになりま

発達障害児の増加には、化学物質の影響も含めてさまざまな要因が考えられる

化学物質と発達障害の関連指摘も



が、対処方法には苦慮しているようです。

一方、医師や脳科学者の中には、農薬をはじめとする合成化学物質の脳への影響が発達障害の原因となっていることを、科学的実証を経て以前から警告している人がいます。心のケアだけでなく、医学的観点も意識して、教育界、特に脳が

1990年代後半に社会を揺るがしたシックハウスの問題は、国の規制で沈静化しました。現在の発達障害児の増加に伴い、支援学級を増設するといった設備投資も重要ですが、最も考えなければいけないことは、個々の子どもたちの将来です。日々の生活に対する私たちの意識が変わらない限り、負の連鎖は続いてしまうのです。

発達障害の原因は一つではなく、複数の要因によって発症する場合もあるでしょう。日常生活を振り返り、

食の安全や、日用品に含まれる化学物質などの何が最も悪いのかを考えてみてください。その上で、リスク

要因を可能な限り取り除くことが必要ではないでしょうか。そのためには、世の中にあふれる情報の中から、科学的根拠があるしっかりとした情報を選別することが大切です。

1990年代後半に社会を揺るがしたシックハウスの問題は、国の規制で沈静化しました。現在の発達障害児の増加に伴い、支援学級を増設するといった設備投資も重要ですが、最も考えなければいけないことは、個々の子どもたちの将来です。日々の生活に対する私たちの意識が変わらない限り、負の連鎖は続いてしまうのです。

（文・広田しのぶ、イラスト・SMILES FACTORY）

— 金曜日掲載 —